

表紙の解説（第12グループ）

厩舎越しの「樽前山」

樽前山（たるまえざん）は、支笏湖の南側、苫小牧市の北西部に位置する活火山です。標高は1,041mで那須火山帯に属し、約9000年前に形成された後カルデラ火山です。

1909年（明治42年）4月17～19日の噴火で、山頂に溶岩ドームが形成されました。樽前山溶岩円頂丘として、世界的にも珍しい三重式活火山として知られていて、北海道指定文化財の天然記念物に指定されています。この溶岩ドームは比較的大きい上に、山体とは異なった色（黒色）をしているために目立ち、樽前山を特徴づけています。樽前山は南から東にかけて高山と隣接していないので、これらの方向からは遠くから見てもこの山が樽前山であることを容易に判別でき、この溶岩ドームが樽前山をランドマークとしやすい山にしています。現在も活発な噴気活動があります。

七合目駐車場まで車で行くことができ、そこから頂上までは約50分程で登ることができます。また、七合目から頂上にかけて高山植物が約80種類以上自生しており、5月から10月にかけて小さな花を咲かせて、登山者の目を楽しませてくれます。更に、東山からは支笏湖などの雄大な景色も堪能でき登山者をはじめ、多くの旅行者から人気を集めています。



表紙の写真は白老町社台（しゃだい）地区の牧場から撮影したものです。サラブレッドといえば日高地方に数多くの牧場がありますが、社台とゆかりのある競走馬も多数おります。

